

2024年(令和6年)
5月21日 火曜日
第1946号

京都自動車新聞



京ト協 交通安全出前授業
前照灯審査のロービーム完全移行が延期
ディーラー2社が社員大会
整備出来栄表彰 20社が受賞
◀大黒商会 オートビジネスフェア開催へ

2
5
6
7
8

発行所 京都自動車新聞社 京都市伏見区竹田向代町 51-5 (京都自動車会館内) 電話 (075) 672-0552 ファクス (075) 682-0205 メール access@kyotojidoshu-np.jp

「四方よし」実現めざす

京運支局長 川口宏幸さん

トップインタビュー この人に聞く

4月1日付で京都運輸支局の支局長に就任した川口宏幸氏(58)は、運営方針の一番目に「コミュニケーションの大切さ」を挙げる。京都は一年を通じてオーバーツーリズム(観光公害)に悩まされる観光都市であり、行政機関に調整役としてあり、行政機関に調整役として



4月1日の朝、近鉄・上高野駅から運輸支局まで歩いてきたが、ちょうど40年前も「同じ道を歩いたな」と感慨深い気持ちになった。40年前は、午前中に大阪で行われた入局式後、先輩

「初めての勤務地が京都。初めて歩いたが、ちょうど40年前も「同じ道を歩いたな」と感慨深い気持ちになった。40年前は、午前中に大阪で行われた入局式後、先輩

と一緒に考えていく姿勢を伝えた。京光都市「京都」の指揮を執ることになった。奈良も観光が盛んだが、京都は業界や企業の規模が違ふ。インバウンド(訪日外国人)の急増などでオーバーツーリズムの問題が取り沙汰されておき、関係者間で対策を講じてきてはいるが、交通渋滞やゴミ、騒音などに對して更なる対策が必要ではないか」と感じていた。

と一緒支局(当日は陸運事務所)に向かった。京都府所南側の歩道の狭さも変わっておらず懐かしさがこみ上げてきた。半面、まさか支局長として戻ってくると思っても寄らなかった。これまで何度か京都に勤務してきたが、このような気持ちになったのは初めてだ。着任後、職員に向けての第一声は、「コミュニケーションの重要性を挙げた。職員同士だけでなく、来庁者を含めいろいろな人とコミュニケーションを深めなければ意思疎通はできない。そのためには風通しの良い職場、関係づくりが不可欠だ。各部門のマネジメントは首席に任せ

「コミュニケーションの重要性を挙げた。職員同士だけでなく、来庁者を含めいろいろな人とコミュニケーションを深めなければ意思疎通はできない。そのためには風通しの良い職場、関係づくりが不可欠だ。各部門のマネジメントは首席に任せ

6月からは観光特急バスの運行が始まる。日常生活を中心とする市民利用と観光利用の棲み分けにつながらばと期待する。観光客をきちんと観光特急バスに誘導できるか、始まらなければ分らない問題点はあるが、成果が上がれば次の展開もみえてくる。各自自治体とは地域公共交通会議を通じて意見交換やアドバイスを発行しており、今後も行政として調整役の機能をしっかりと果たしたい。

一定期間の検証が必要だが、既存企業の遊休車両活用や人材育成などうまく調整してもらえればと思う。一方、海外型のライドシェアは安心・安全

一定期間の検証が必要だが、既存企業の遊休車両活用や人材育成などうまく調整してもらえればと思う。一方、海外型のライドシェアは安心・安全

Profile(プロフィール)

かわぐち・ひろゆき

1965年5月28日生まれ。大阪府出身。京都府陸運事務所登録課を皮切りに、大阪、京都、奈良の各府県を中心にキャリアを積んできた。京都では、2002年4月から1年間、自動車登録官を務めたほか、07年10月運輸企画専門官(主任自動車登録官)、09年10月から同(監査)。14年4月に大阪航空局航空部補償課専門官。近畿運輸局総務部総務課長補佐を経て、18年4月大阪航空局総務部航空振興課長、21年4月近運局総務部総務課長、23年4月奈良運輸支局長

全面、車両管理や事故対応などクリアしなければならぬ課題が多い。観光のオーバーフローは、京都市域がほとんど。周辺部に観光客を誘導できるような地域交通と連携を強化することも、自治体も地域の足としての公共交通機関をしっかりと守る方針が求められる。利用者、観光客、交通事業者、自治体の四方よしになるよう一体感を持って対策を進めていきたい。

2023年度事業として京都芸術大学と協定を結んだ。若い世代の考え方や感性を取り入れるのが狙いだ。第一弾として、今年1月に京都府バス協会(鈴木一也会長)主催のバス魅力発信イベントを実施、一定の手応えはつかんだ。方向性はまだ決めていないものの、第二弾も企画していく。イベントをきっかけに人材不足の解消につながるよう出展企業が増えることを期待している。

追跡 データベース 23カ月連続で倒産増

—東京商工リサーチ編—

2月 コロナ破綻 減少続く

2月の負債額1000 企業を中心とする息切れ万円以上の全国企業倒産 倒産が目立つ。このうち件数は、前年同月比23.3%増の712件と23カ月連続で前年同月を上回った。2月としては3年連続で前年を上回り、増え続けている。物価高に加え、人材確保に伴うコストアップが追い打ちとなった中小・零細

| 産業 | 倒産件数 | |
|----------|------|-----------|
| | 2月 | 前年同月比(増率) |
| 農・林・漁・鉱業 | 9 | 125.0% |
| 建設業 | 136 | 18.2% |
| 製造業 | 89 | 48.3% |
| 卸売業 | 94 | 42.4% |
| 小売業 | 88 | 72.5% |
| 金融・保険業 | 1 | ▲75.0% |
| 不動産業 | 20 | ▲16.6% |
| 運輸業 | 33 | ▲8.3% |
| 情報通信業 | 24 | ▲11.1% |
| サービス業ほか | 218 | 14.7% |
| 合計 | 712 | 23.3% |

産業別に見ると、10カ起ったコロナ関連のテゴリのうち、6業種が経営破綻は2月末時点前年同月を上回る。特にサービス業他は218件と74.9%増に上った。うち京都は227件と23.3%増に上った。コロナ破綻のトレンドは22年から一貫して強まったが、2カ月連続で前年同月を下回った。2022年2月以降に

り、ピークアウトの気配が見える。今月の倒産件数は244件。業種別では食料や光熱費負担に苦しむ飲食業が抜き目出で多く、以降に建設業、アパレル関連(製造・販売)、飲食料品卸売業、食品製造、貨物自動車運送業と続く。コロナ禍が終息しても業績回復が見通せず、資金繰りを維持できないケースが多発している。そのため、コロナ関連破綻は一進一退が続くと見られる。

2024年問題が本格化する。物流に関しては、昨年

トラックドライバーの魅力が高まれば人も集まり、人手不足の解消につながる。若い世代の考え方や感性を取り入れるのが狙いだ。第一弾として、今年1月に京都府バス協会(鈴木一也会長)主催のバス魅力発信イベントを実施、一定の手応えはつかんだ。方向性はまだ決めていないものの、第二弾も企画していく。イベントをきっかけに人材不足の解消につながるよう出展企業が増えることを期待している。

2024年問題が本格化する。物流に関しては、昨年

豊富なラインナップ

| | | | | | |
|---------------------------------|--|---|-------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|
| Japan venture DT-3300 | HITACHI Inspire the Next HDM-9000 | TOOLPLANET TECHNOLOGY Diagnostic Tool TPM-3 | AUTEL MaxiSys Ultra | LAUNCH X-431 PAD VII | G-SCAN G-SCAN 2 Tab |
|---------------------------------|--|---|-------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|

株式会社 大黒商会
DAIKOKUSHOKAI
本社 京都市右京区西院平町 10 番地
TEL: 075-311-0141
営業所 京都・南・亀岡・舞鶴・福知山・福井・小松・金沢・奈良・彦根